

第12講 【 蔵象 V 】 教科書 P.40～42

『 肝 』

[別称] 將軍の官『素問』；剛臟；罷極の本

[位置] 背の第9椎に付く

[特徴] 条達を好み、抑鬱を嫌う

{ 条達：のびやかである、物事が思い通りに進む
抑鬱：心が塞いで不快なこと

[生理機能]

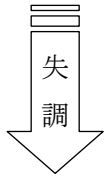
：肝には“疏泄”“血を蔵す”の2つの大切な働きがある。

1. 疏泄（を主る）

{ 疏：疏通（支障なく通る）
泄：通調（滞りのないことい）

：肝には気機を疏通させのびやかに往き来させる働きがある。

生理意義



失調表現

- ① 臟腑の気の運行を促進する → 臟腑の機能を發揮
- ② 血と津液の運行を促進する
- ③ 脾胃の消化への協力
- ④ 情志活動の調節 → 心情はほがらかで安定
- ⑤ 月経を通調

- ① 臟腑機能の失調・不全
- ② 病理産物（瘀血・痰飲）の発生
- ③ 脾胃消化作用の低下
- ④ イライラ・怒りやすい；愁い・塞ぐ
- ⑤ { 亢進：月経前期、量少
減退：月経痛、月経後期、閉経、血塊が混じる

2. 血を蔵す（蔵血）

：肝は血を貯蔵し、血量を調節する働きがある。

生理意義

- ① 人体外周部への血量分配
- ② 肝の陽・気の増長を防ぎ、疏泄作用が強くなりすぎないようにする
- ③ 出血を防ぐ
- ④ 月経の形成

| | | |
|------------|---|-----------------|
| 血と関わりの深い臓腑 | } | ① 心 : 主血脈 |
| | | ② 脾 : 気血生化の源、統血 |
| | | ③ 肝 : 蔵血 (、疏泄) |

* 筋を主る

: 教科書には“ここで言う筋とは、筋肉の運動と支持の機能を指している”とあるが、「筋」とは腱や靭帯のことを指すと覚えていただきたい。

“肝は筋を主る”とは肝が腱・靭帯・関節などの組織を滋養している事を指す。失調 → 肝が衰えると筋を滋養できなくなり運動ができなくなる。

「罷極の本」と呼ばれる所以である。

[系統]

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 主 | 華 | 官 | 液 | 神 | 志 |
| 筋 | 爪 | 目 | 涙 | 魂 | 怒 |

【練習問題】

問1. 肝の臓の生理作用はどれか。

1. 納気を主る。
2. 運化を主る。
3. 神を蔵す。
4. 血を蔵す。

問2. 疏泄を主る臓はどれか。

1. 肝
2. 脾
3. 肺
4. 腎

問3. 次のうち肝の特徴として最も適当なのはどれか。

1. 蔵することを好み、瀉することを嫌う
2. 乾燥を好み、湿気を嫌う
3. 安静を好み、躁動を嫌う
4. 条達を好み、抑鬱を嫌う

問4. 爪は何の余りと呼ばれるか。

1. 血の余り
2. 骨の余り
3. 筋の余り
4. 気の余り